

石巻でのたくさんの笑顔

日立市立助川中学校一学年

おおぶ 大部 珠桃梨 みもり

私は、先日二泊三日で東日本大震災復興ボランティアに参加しました。そこで、被災地に行き、被災者の方々に炊き出しボランティアとして、カレーを作ったり、歌や踊りを披露したり、コミュニケーションを図ったりしました。

私がこのボランティアに参加した理由は、誰かの役に立ち、喜んでもらいたかったからです。そして、大震災を忘れてはいけないうと思ったからです。

まず、一日目は、福島県の松原湖近くの合宿所へ行き参加者と会い、打ち合せをしました。私は、震災から八年もたっているのです。それ程重い気持ちは持っていないでして、でもホリエンテーションで、

「見た目の復興が進んでも、心はいつになっても変わらない。」

と説明を受けました。その時はその言葉に、深い意味が込められている事を理解していませんでした。

二日目、津波被害の集中した石巻市の復興住宅地へ炊き出しへ行きました。震災前は、たくさんの方々の家々、人々が暮らした町でした。それを見て私は、自分の街や家族や家も思い出し、それが一瞬で無くなったらと、想像したり、泣きたくなりました。

炊き出しで、私のグループは、カレー作り配膳をしました。自主的に行動できるようになり、被災者に喜んでもらえるように行いました。回りをよく見て、笑顔になってももらえるように、会話をしたり、握手をしました。家族全員亡くしたり、思い出のつまんだ家を流された人達が大勢いました。それなのに、私達のお料理や歌や踊りの出し物に、たくさんの方々の笑顔と、感謝の言葉をいただきました。私は、飛び上がるほどのうれしさと共に、大切な物、家族を失うことが、どれだけ悲しい

事が考えすぎてしまい気がついたら涙が流れていました。私が流した涙や、感じたことが被災者にとっして正しかったのか、わかりません。ただ、今も大切に笑顔で過ごすには、思いやりがとても重要だと学びました。街の復興は進んでも、人の心が完全に戻ることはない実感しました。

私は、風化したり、忘れてしまうことの無いよう、日々被災地を思いながら暮らして行こうと思います。

今回の経験を生かし、今後の人生を、どう生きるか考え、自分の人生をしっかり歩もうと思います。